

2. 住民ニーズ

1) 住民アンケートの概要

①調査目的

市内公共交通の利用実態やバス利用に関する問題点・課題などを把握することを目的として、住民を対象としたアンケートを実施した。

②調査対象者

市内の20歳以上の住民を対象に3,100人を無作為抽出した。

③調査実施期間

アンケート配布日 : 平成23年9月16日(金)

アンケート回収日(締切日) : 平成23年9月30日(金)

④調査内容

- ・バスの認知度と必要性について
- ・バスの利用状況について
- ・バスを利用しない理由と利用意向について
- ・バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設について
- ・公共交通対策のための公的負担額について
- ・回答者の属性について 等

⑤調査方法と回収率

郵送にてアンケート票を配布及び回収した。

配布数 : 3,100票、回収票数 : 1,540票、回収率 : 49.7%

2) 結果

①バスの認知度について（配布者全員対象）

問 1 あなたがバスについて知っていること全てに○をつけてください。

1. 名鉄バスが運行していること
2. i-バスが運行していること⇒以下の知っているコースに○をつけてください。
(イ. 一宮コース ロ. 尾西北コース ハ. 尾西南コース ニ. 木曾川・北方コース)
3. 生活交通バスが運行していること⇒以下の知っているコースに○をつけてください。
(ホ. 千秋ふれあいバス ヘ. ニコニコふれあいバス)
4. 自宅から最寄りのバス停の場所
5. 自宅から最寄りのバス停の名前
6. 自宅から最寄りのバス停の時刻表
7. 自宅から最寄りのバス停の路線の経路（ルート）
8. 自宅から最寄りのバス停の路線で行ける施設
9. 自宅から最寄りのバス停の路線の運賃

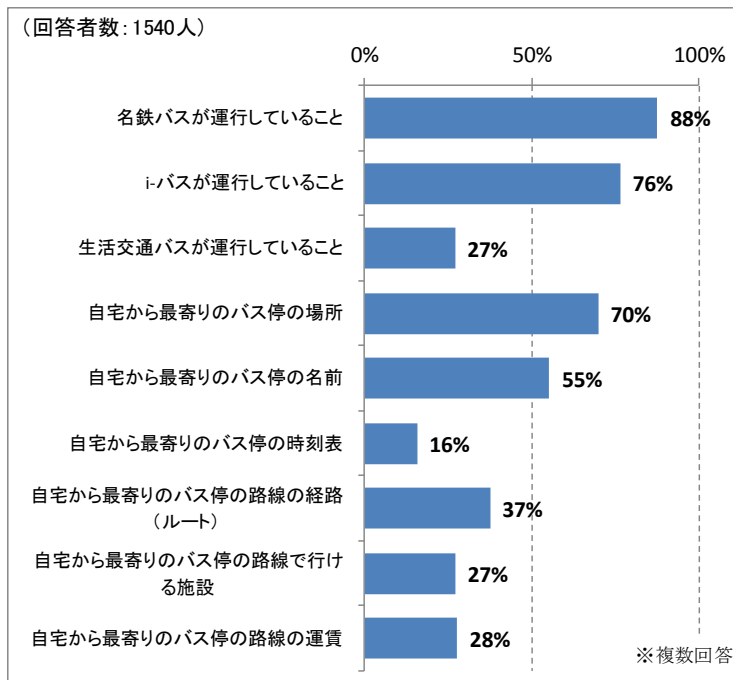
○バスの認知度は、「路線バス」が 88%、「i-バス」が 76%、「生活交通バス」が 27%と「生活交通バス」の認知度が低い。

○運行内容の認知度は、「自宅から最寄りのバス停の場所」や「名前」が 55%～70%を占めているが、「最寄りバス停を運行する路線の経路」や「行ける施設」、「運賃」、「時刻表」は 16%～37%と低い。

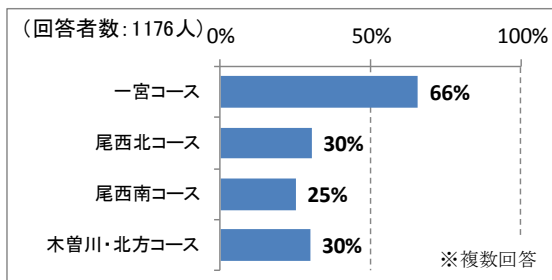
○i-バスのコース別の認知度は、「一宮コース」が 66%を占めているが、「尾西北、尾西南、木曾川・北方コース」では 25%～30%となっている。

○生活交通バスのコース別の認知度は、「千秋ふれあいバス」が 74%を占めているが、「ニコニコふれあいバス（大和町・萩原町コース）」では 34%となっている。

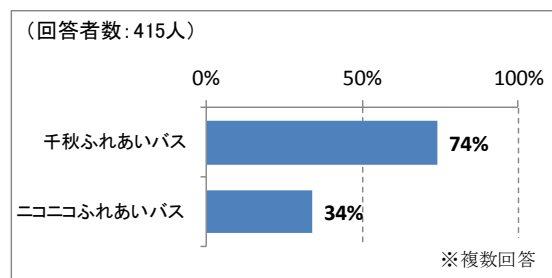
▼バスの認知度



▼i-バスのコース別の認知度



▼生活交通バスのコース別の認知度



②バスの必要性について（配布者全員対象）

問 2 あなたにとってのバスの必要性について、該当する番号1つに○をつけてください。

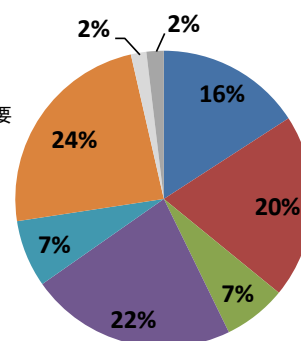
1. 今利用しており、今後も利用するため必要
2. 今利用していないが、利用できる環境にあり、条件次第で利用するため必要
3. 今は利用できる環境にないが、条件が整えば利用するため必要
4. 自動車などが利用できない時に利用する可能性があるため必要
5. 自分自身は利用しないが、家族などが利用するため必要
6. 今のところ利用する予定はない
7. その他（ ）

○バスの必要性は、「今利用しており、今後も利用するため必要」が 16%、「今利用していない又は自分自身は利用していないが今後利用する可能性があるため必要」が 56%を占めており、これらを合計した「バスを必要」とする割合は 72%となっている。

▼バスの必要性

（回答者数：1540人）

- 今利用しており、今後も利用するため必要
- 今利用していないが、利用できる環境にあり、条件次第で利用するため必要
- 今は利用できる環境にないが、条件が整えば利用するため必要
- 自動車などが利用できない時に利用する可能性があるため必要
- 自分自身は利用しないが、家族などが利用するため必要
- 今のところ利用する予定はない
- その他
- 無回答



③最寄りの鉄道駅又はバス停までの距離について（配布者全員対象）

問 3 あなたのお住まいから最寄りの鉄道駅又はバス停までの距離をおしえてください。

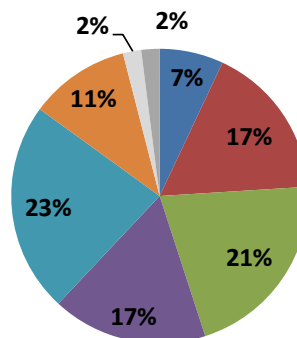
1. 50m（徒歩で1～2分）
2. 100m（徒歩で2～3分）
3. 200m（徒歩で4～6分）
4. 300m（徒歩で6～9分）
5. 500m（徒歩で10～15分）
6. 1km（徒歩で20～30分）
7. その他（ ）

○最寄りの鉄道駅又はバス停までの距離は、「500m」以内が 85%を占めている。最寄りの鉄道駅又はバス停までの距離が「1km」の方が 11%存在している。

▼最寄りの鉄道駅又はバス停までの距離

（回答者数：1540人）

- 50m（徒歩で1～2分）
- 100m（徒歩で2～3分）
- 200m（徒歩で4～6分）
- 300m（徒歩で6～9分）
- 500m（徒歩で10～15分）
- 1km（徒歩で20～30分）
- その他
- 無回答



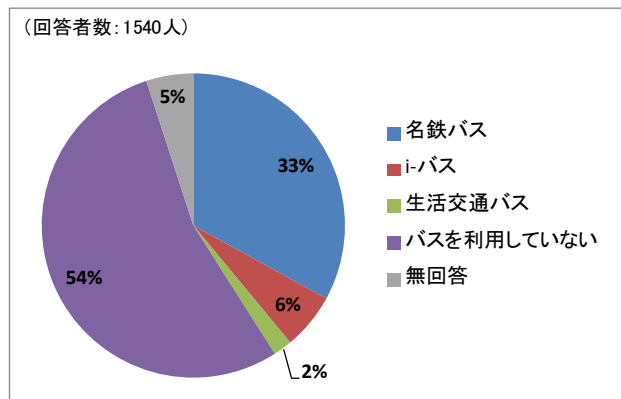
④利用したバス路線について（配布者全員対象）

問 4 あなたはこの1年の間にバスを利用したことがありますか。バスを利用したことがある方は、主に利用したバスの種類に該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|---|---------------------|
| 1. 名鉄バス | } | ⇒問 5（P4）以降をお答えください。 |
| 2. i-バス | | |
| 3. 生活交通バス | | |
| 4. バスを利用していない | | ⇒問 8（P4）以降をお答えください。 |

○この1年の間に利用したバス路線は、「名鉄バス」が33%、「i-バス」が6%、「生活交通バス」が2%を占めており、バス路線計では41%となっている。

▼この1年間におけるバス利用状況



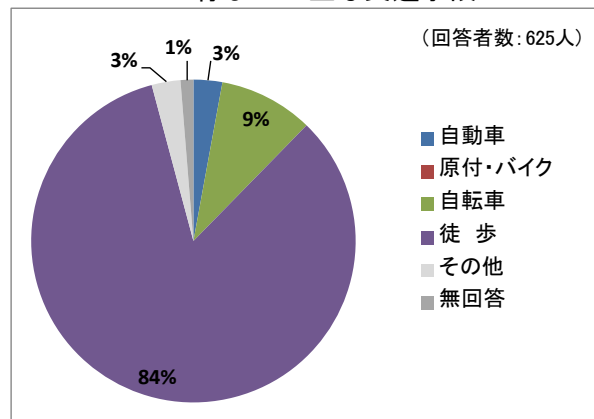
⑤自宅からバス停までの交通手段について（バス利用者対象）

問 5 自宅からあなたが主に利用するバス停までの交通手段をおしえてください。該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|--------|------------|--------|
| 1. 自動車 | 2. 原付・バイク | 3. 自転車 |
| 4. 徒歩 | 5. その他 () | |

○自宅からバス停までの交通手段は、「徒歩」が84%を占めている。その他の交通手段では、「自転車」が9%を占めている。

▼バス停までの主な交通手段



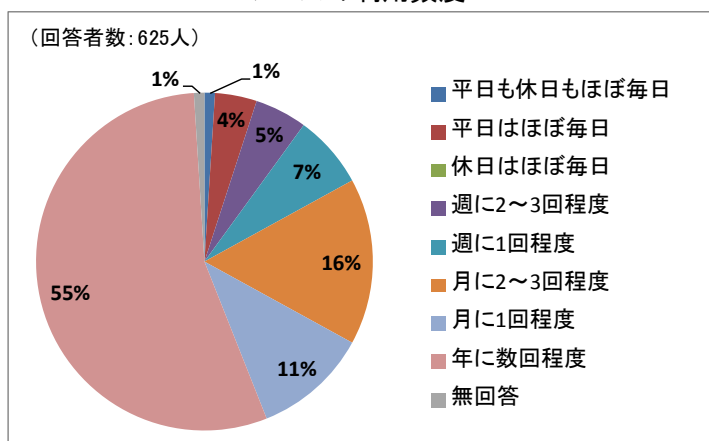
⑥バスの利用頻度について（バス利用者対象）

問 6 あなたがこの1年の間にバスを利用した頻度をおしえてください。該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------|-------------|------------|-------------|
| 1. 平日も休日ほぼ毎日 | 2. 平日はほぼ毎日 | 3. 休日はほぼ毎日 | 4. 週に2～3回程度 |
| 5. 週に1回程度 | 6. 月に2～3回程度 | 7. 月に1回程度 | 8. 年に数回程度 |

○バス利用の頻度は、「年に数回程度」が55%を占めている。「週に1回程度」以上の定期的な利用は17%に留まっている。

▼バスの利用頻度



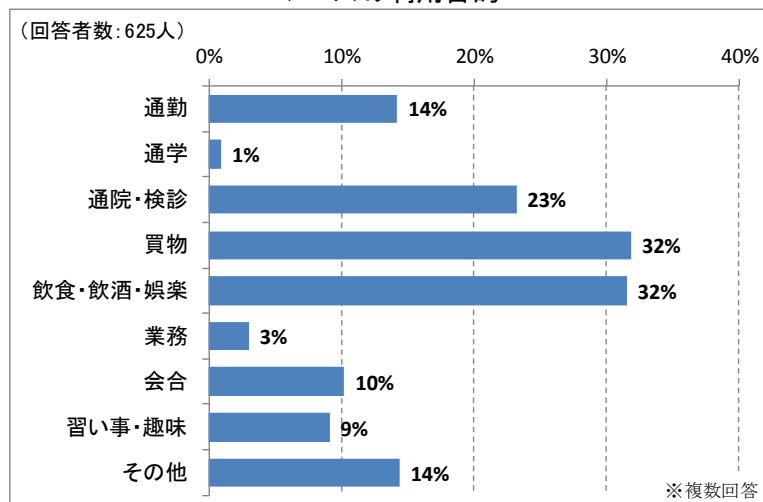
⑦バスの利用目的について（バス利用者対象）

問 7 あなたがバスを利用する主な目的をおしえてください。該当する番号全てに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------|-------|----------|-----------|
| 1. 通勤 | 2. 通学 | 3. 通院・検診 | 4. 買物 |
| 5. 飲食・飲酒・娯楽 | 6. 業務 | 7. 会合 | 8. 習い事・趣味 |
| 9. その他 () | | | |

○バスの利用目的は、「買物」、「飲食・飲酒・娯楽」、「通院・検診」といった自由目的が23%～32%を占めているとともに、「通勤」目的が14%を占めている。アンケート対象者を20歳以上としたため、「通学」目的が1%と低い結果となっている。

▼バスの利用目的



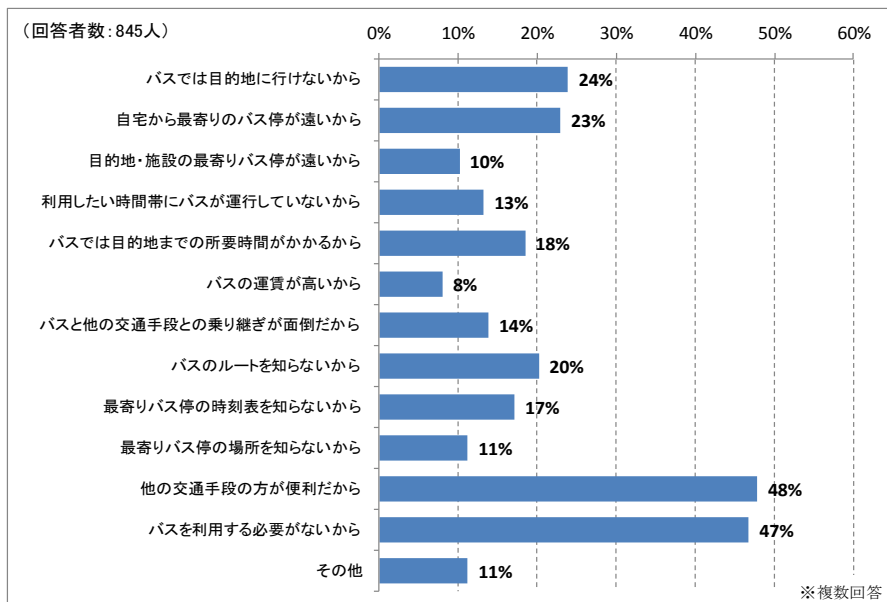
⑧バスを利用しない理由について（バス未利用者対象）

問 8 あなたがバスを利用しない理由に該当するもの全てに○をつけてください。

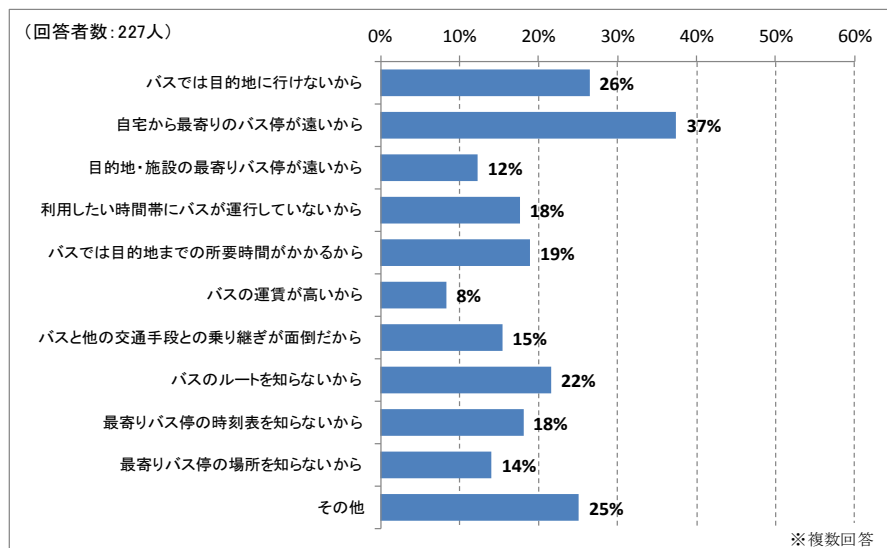
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. バスでは目的地に行けないから | 2. 自宅から最寄りのバス停が遠いから |
| 3. 目的地・施設の最寄りバス停が遠いから | 4. 利用したい時間帯にバスが運行していないから |
| 5. バスでは目的地までの所要時間がかかるから | 6. バスの運賃が高いから |
| 7. バスと他の交通手段との乗り継ぎが面倒だから | 8. バスのルートを知らないから |
| 9. 最寄りバス停の時刻表を知らないから | 10. 最寄りバス停の場所を知らないから |
| 11. 他の交通手段の方が便利だから | 12. バスを利用する必要がないから |
| 13. その他（具体的に記入してください） | |

○バスを利用しない理由は、「他の交通手段の方が便利だから」といった利用者側の理由によるものが48%を占めているとともに、「バスを利用する必要がない」が47%を占めている。
○上記回答者を除いた場合、「自宅から最寄りバス停が遠い」、「バスでは目的地に行けない」といった運行上の理由が高く、また、「バスのルートを知らない」、「最寄りバス停の時刻表を知らない」といった認知上の理由が比較的多い。

▼バスを利用しない理由（バス未利用者全体）



▼バスを利用しない理由（「他の交通手段の方が便利だから」、「バスを利用する必要がないから」を回答した方を除く）



⑨利用しない理由が改善された場合のバス利用意向について

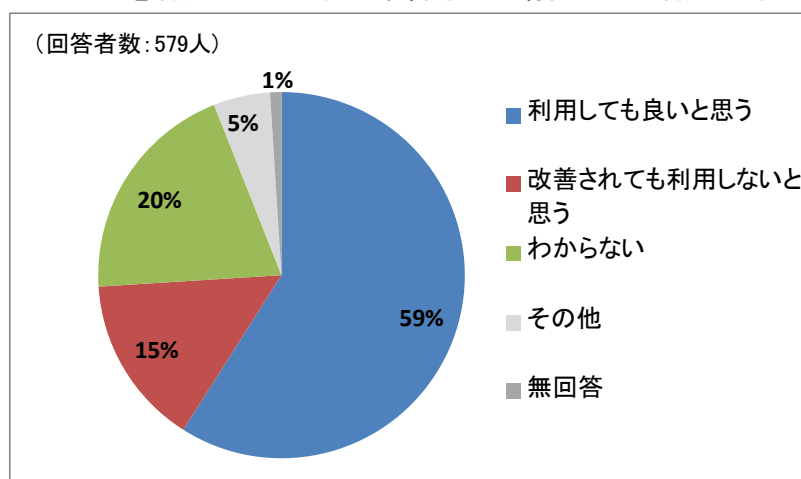
(バス未利用者のうち問8で「他の交通手段の方が便利だから」、「バスを利用する必要ないから」を回答した方を除く)

問9 問8のバスを利用しない理由が改善された場合、あなたはバスを利用しても良いと思いますか。該当する番号1つに○をつけ、必要事項をご記入ください。

1. 利用しても良いと思う
2. 改善されても利用しないと思う ⇒利用しない理由をご記入ください。
(利用しない理由：_____)
3. わからない
4. その他(具体的に記入してください)_____)

○利用しない理由が改善された場合のバス利用意向は、「利用しても良いと思う」が59%を占めている。

▼バスを利用しない理由が改善された場合のバス利用意向



⑩バス利用が可能な、自宅からバス停までの距離について

(バス未利用者のうち問8で「他の交通手段の方が便利だから」、「バスを利用する必要ないから」を回答した方を除く)

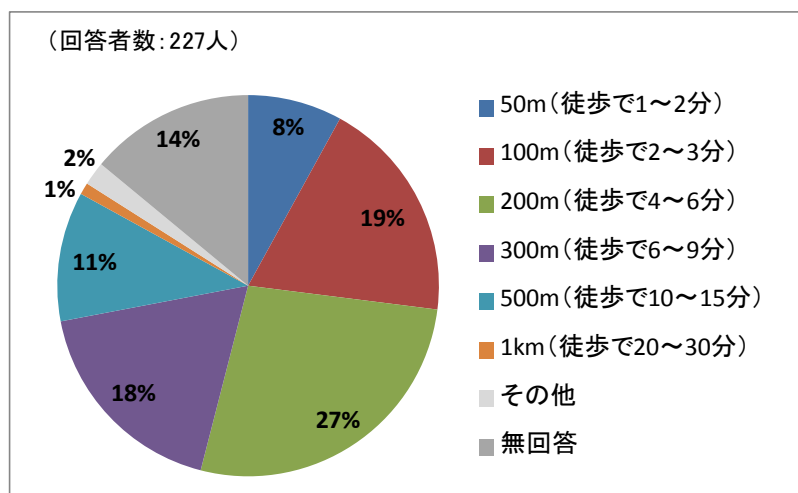
問10 あなたのお住まいからバス停までの距離がどの程度までなら、バスを利用することが可能ですか。

1. 50m (徒歩で1~2分) 2. 100m (徒歩で2~3分) 3. 200m (徒歩で4~6分)
 4. 300m (徒歩で6~9分) 5. 500m (徒歩で10~15分) 6. 1km (徒歩で20~30分)
 7. その他 ()

○バス未利用者のバス停利用圏域 (バス利用が可能な自宅から最寄りバス停までの距離) については「300m」以内が約72%、「500m」以内では83%を占めている。

○バス利用が可能となるバス停までの距離は、バス利用の有無、年齢階層、自動車や自転車等の利用状況により異なるが、概ね200m~300mの範囲となっている。

▼バス停利用圏域 (バス利用が可能な自宅から最寄りバス停までの距離)



▼バス停利用圏域の比較

区分	内訳	バス利用が可能なバス停までの距離
バス利用	バス利用者(最寄りバス停までの距離)	260m
	バス未利用者(他の交通手段の方が便利やバスを利用する必要がない方を除く)	230m
年齢階層	20歳代	270m
	30歳代	210m
	40歳代	240m
	50歳代	240m
	60歳以上 64歳以下	210m
	65歳以上 69歳以下	240m
	70歳以上 74歳以下	220m
自動車利用	75歳以上	260m
	自由に使える(共同利用や家族の送迎を含む)	230m
原付・バイク又は自転車利用	自由に使える	250m
	自由に使えない	200m

⑩バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設と利用頻度

(配布対象者全員からバス未利用者のうち問8で他の交通手段の方が便利だから、バスを利用する必要ないからを回答した方を除く)

問11 あなたがバスで行く、もしくはバスで行けたら便利だと思う施設をおしえてください。該当する番号全てに○をつけるとともに、利用施設の頻度に該当する番号をご記入ください。

【利用頻度】

- ①平日も休日ほぼ毎日 ②平日はほぼ毎日 ③休日はほぼ毎日
 ④週に2~3回程度 ⑤週に1回程度 ⑥月に2~3回程度
 ⑦月に1回程度 ⑧年に数回

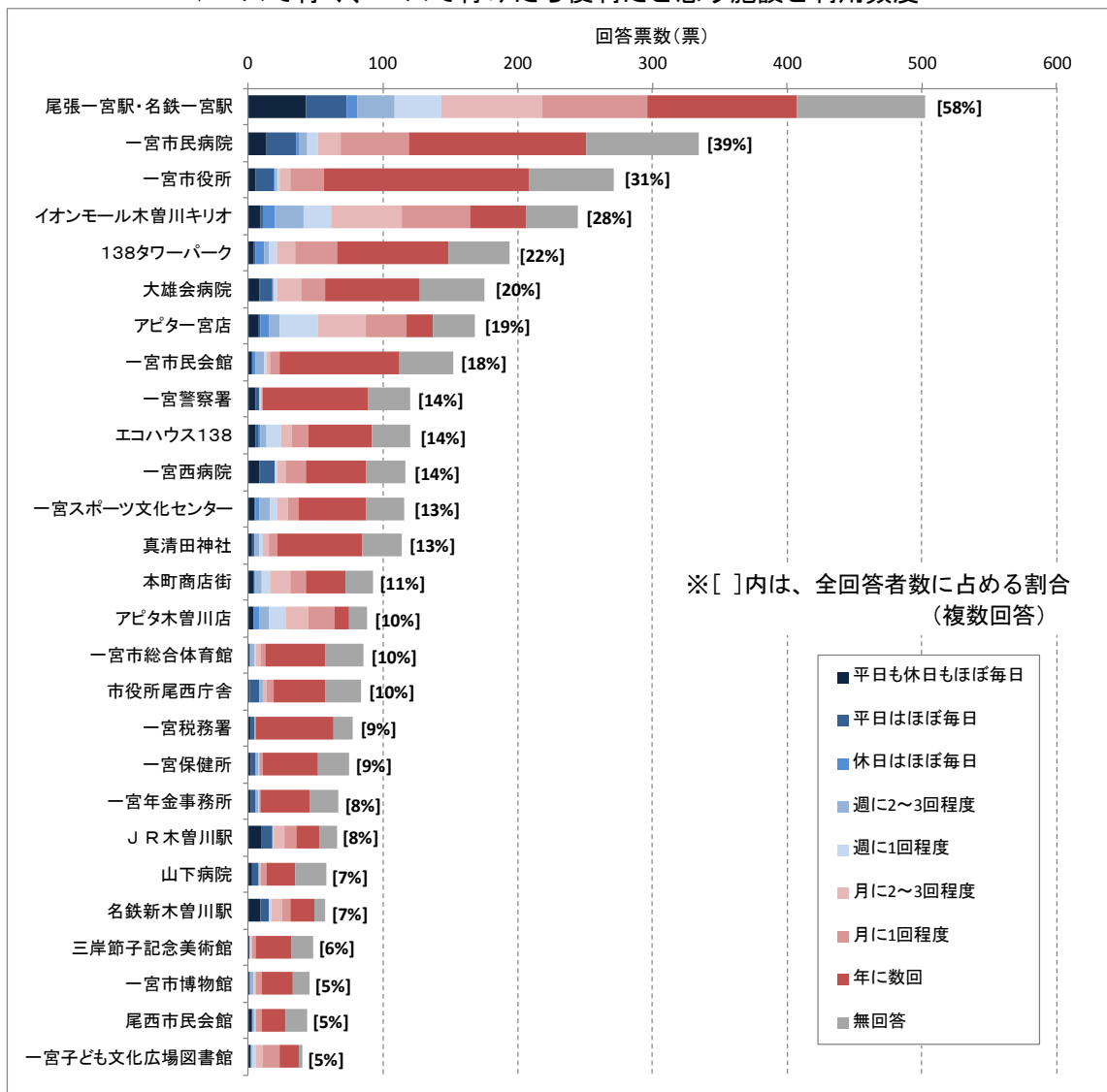
上記の選択肢から番号をお選びください。

番号	施設名称	利用頻度	番号	施設名称	利用頻度
例 ③①	138タワーパーク	⑥	28	尾西スポーツセンター	
1	一宮警察署		29	一宮市総合体育館	
2	一宮市役所		30	エコハウス138	
3	市役所尾西庁舎		31	138タワーパーク	
4	市役所木曾川庁舎		32	尾西グリーンプラザ	
5	() 出張所		33	() 子育て支援センター	
6	一宮市民病院		34	() いこいの家	
7	木曾川市民病院		35	ゆうゆうのやかた	
8	いまいせ心療センター		36	市民活動支援センター	
9	尾西記念病院		37	一宮税務署	
10	山下病院		38	一宮年金事務所	
11	大雄会病院		39	() 郵便局	
12	一宮西病院		40	尾張一宮駅・名鉄一宮駅	
13	泰玄会病院		41	JR木曾川駅	
14	() 病院・医院		42	名鉄新木曾川駅	
15	一宮保健所		43	() 駅	
16	一宮市博物館		44	ファッションデザインセンター	
17	三岸節子記念美術館		45	真清田神社	
18	尾西歴史民俗資料館		46	妙興寺	
19	木曾川資料館		47	金融機関 ()	
20	() 図書館		48	本町商店街	
21	一宮市民会館		49	イオンモール木曾川キリオ	
22	尾西市民会館		50	アピター一宮店	
23	一宮地域文化広場		51	アピタ木曾川店	
24	一宮子ども文化広場図書館		52	スーパー ()	
25	尾西文化広場		53	その他 ()	
26	尾西生涯学習センター		54	その他 ()	
27	一宮スポーツ文化センター		55	その他 ()	

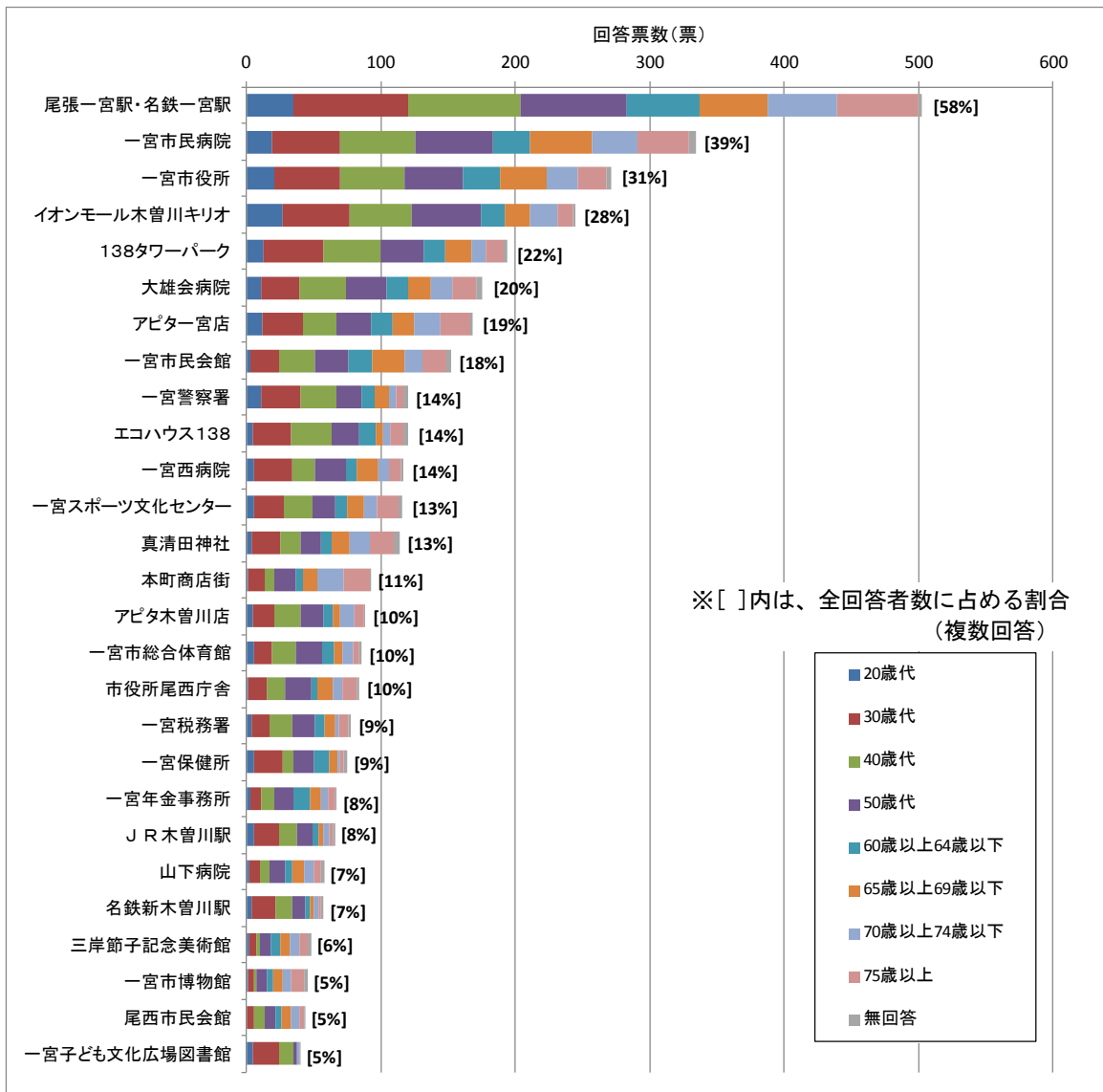
*金融機関及びスーパーなどについては、支店名までご記入ください。

- バスで行く、バスで行けたら便利な施設は、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」58%と最も多く、次いで「一宮市民病院」39%、「一宮市役所」31%、「イオンモール木曾川キリオ」28%、「138タワーパーク」22%の順となっている。
- 地区別にみた場合、市内 23 地区中、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」が 17 地区、「市民病院」が神山、大志、北方町、今伊勢町、千秋町の 5 地区、「尾西庁舎」が朝日の 1 地区、「JR 木曾川駅」及び「名鉄木曾川駅」が木曾川町の 1 地区で第 1 位となっている。（今伊勢町は「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」および「市民病院」が同率 1 位のため、第 1 位の合計地区数は 24 となっている。）
- 各地区 1 位の施設へバス路線が直通していない地区は、大志及び北方町の「一宮市民病院」、奥町、小信中島、開明の「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」となっている。
- これら施設へのバス利用頻度を見た場合、ほぼ全施設で月又は年に数回程度といった比較的低利用頻度の低い利用が主体となっているが、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」、「イオンモール木曾川キリオ」、「アピター一宮店」といった鉄道駅及び大規模商業施設では比較的高利用頻度の高い利用も存在している。
- 次に、これら施設利用者を年齢階層別にみた場合、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」、「一宮市民病院」を始めとした各施設とも、特定の年齢階層に特化しておらず、全ての年齢階層からの利用意向が示されている。

▼バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設と利用頻度

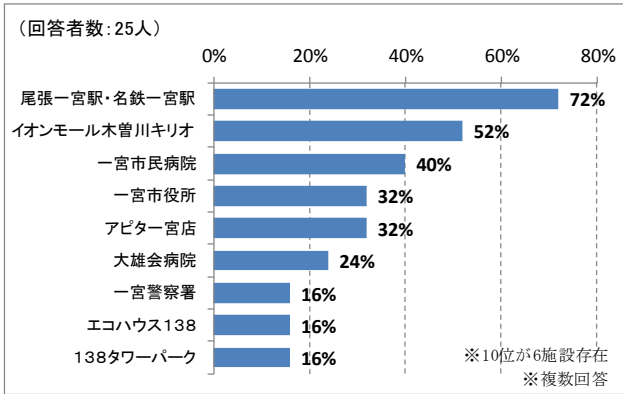


▼バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設と年齢構成

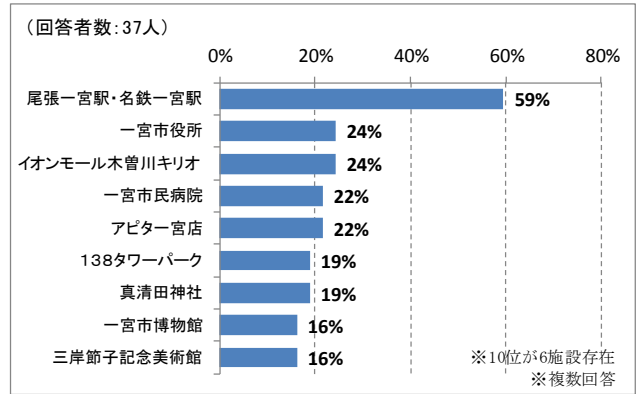


▼バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設（各地区上位10施設：その①）

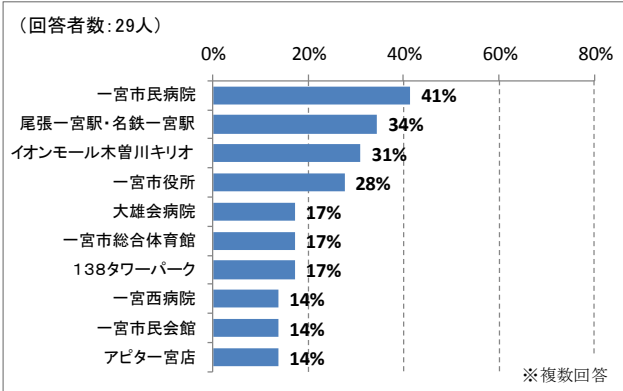
▼宮西



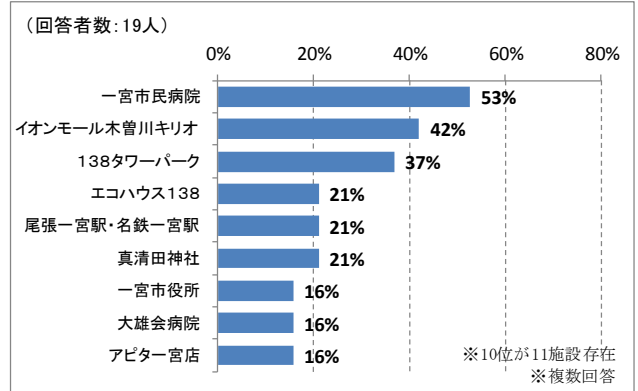
▼貴船



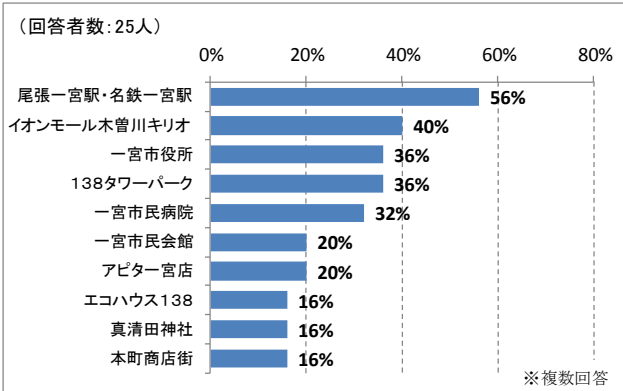
▼神山



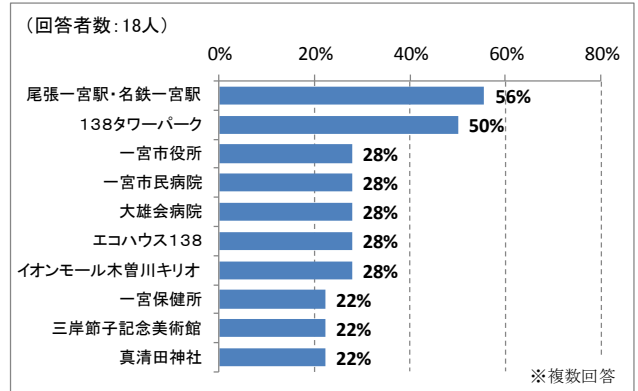
▼大志



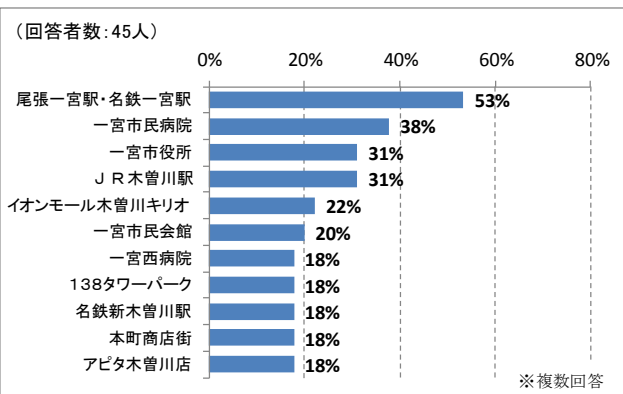
▼向山



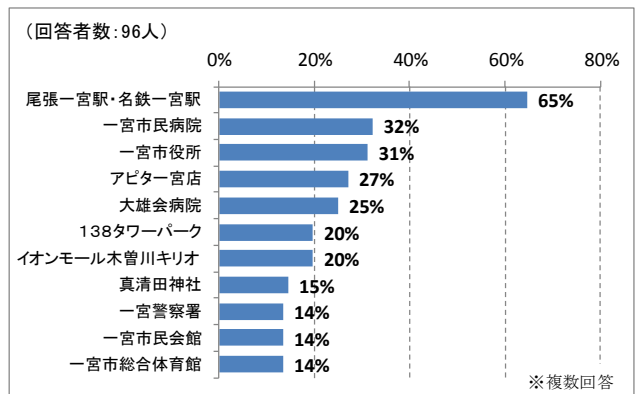
▼富士



▼葉栗



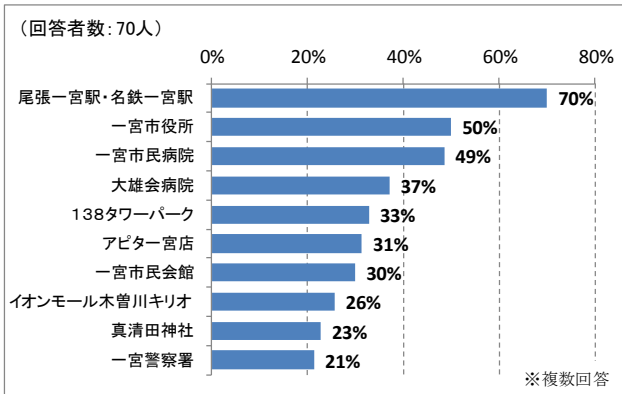
▼西成



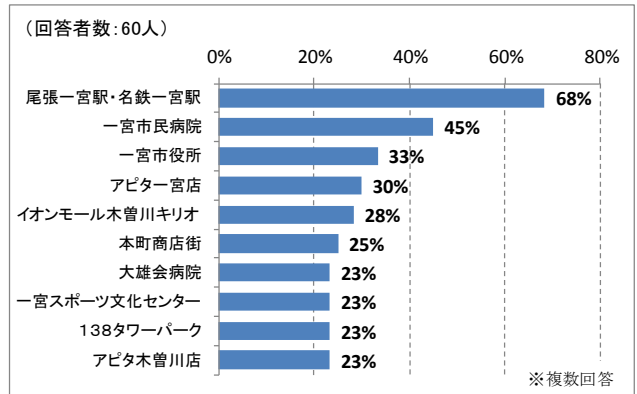
※問8のバスを利用しない理由で「他の交通手段の方が便利だから」、「バスを利用する必要がないから」を回答した方を除く

▼バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設（各地区上位 10 施設：その②）

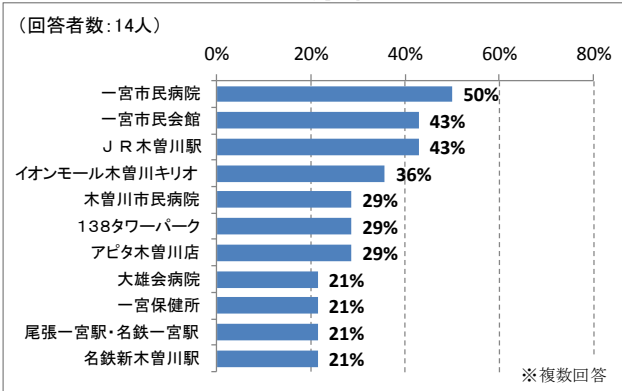
▼丹陽町



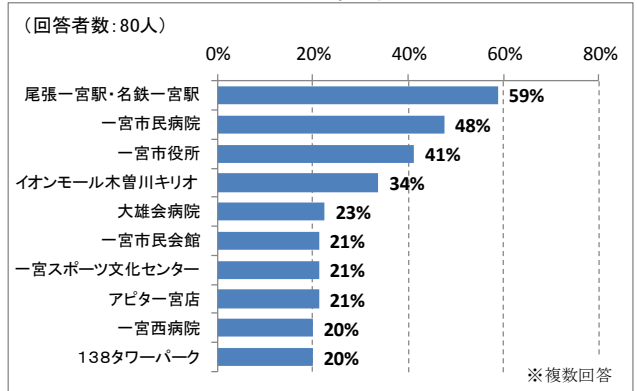
▼浅井町



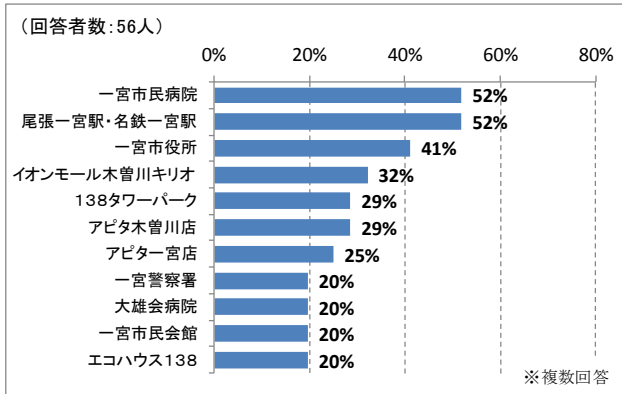
▼北方町



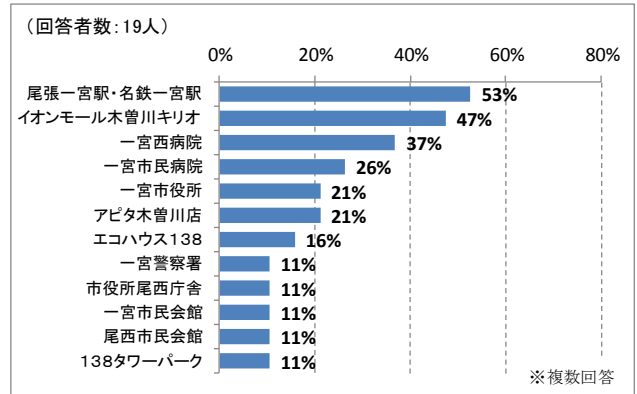
▼大和町



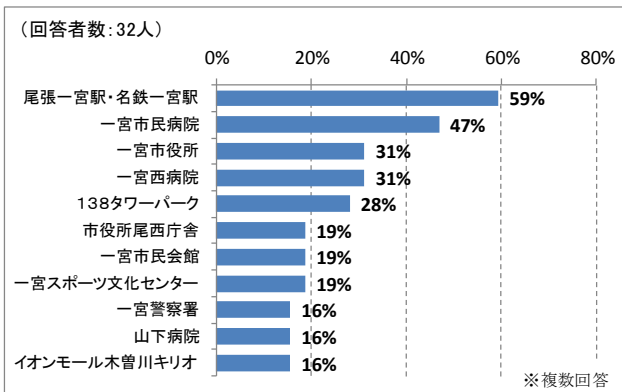
▼今伊勢町



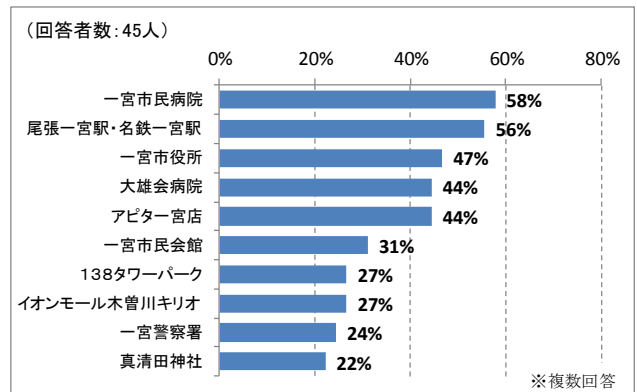
▼奥町



▼萩原町



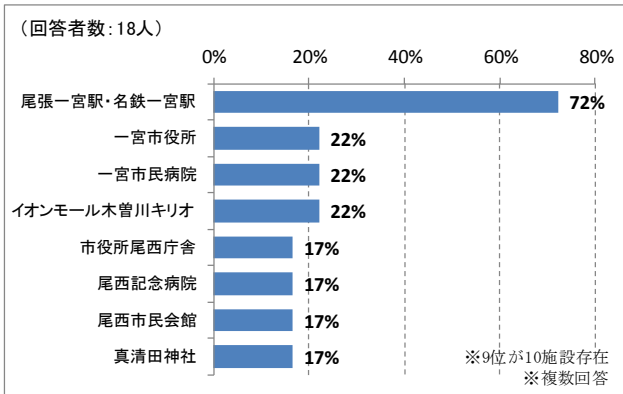
▼千秋町



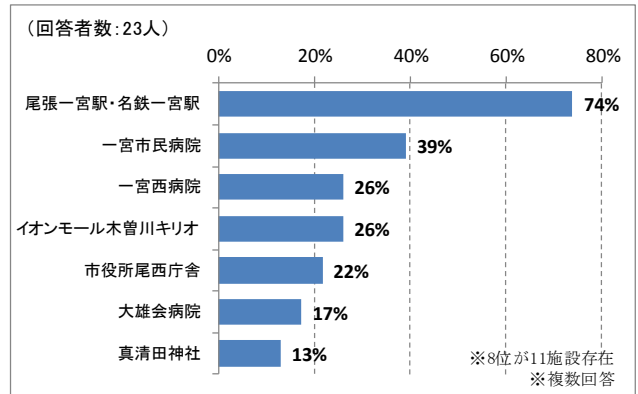
※問8のバスを利用しない理由で「他の交通手段の方が便利だから」、「バスを利用する必要がないから」を回答した方を除く

▼バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設（各地区上位 10 施設：その③）

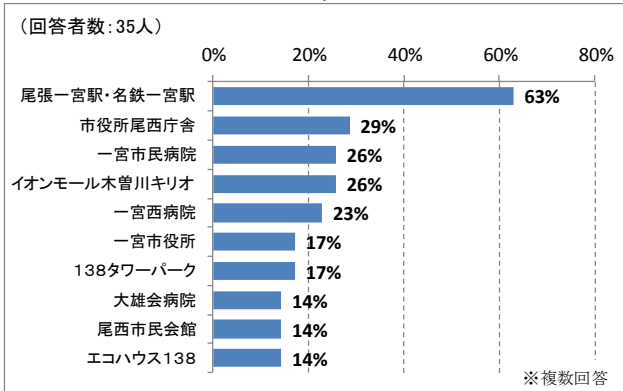
▼起



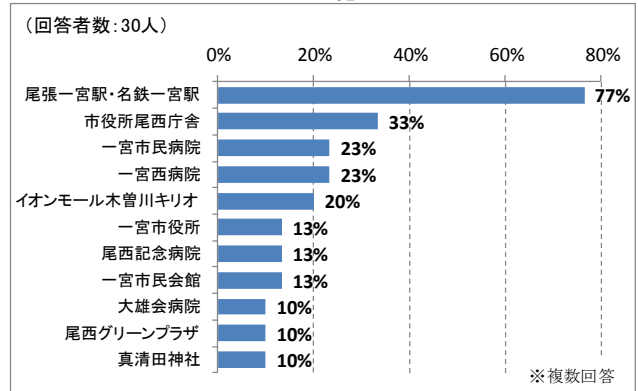
▼小信中島



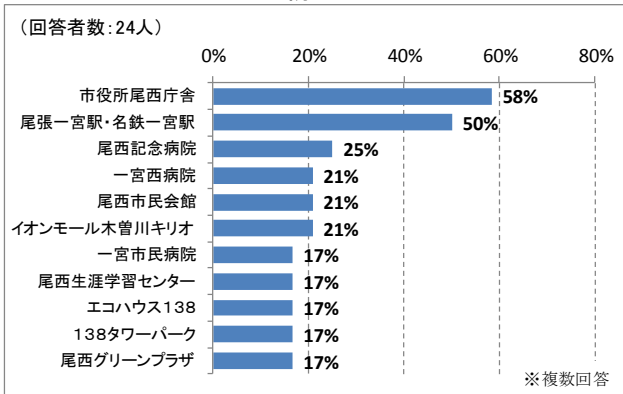
▼三条



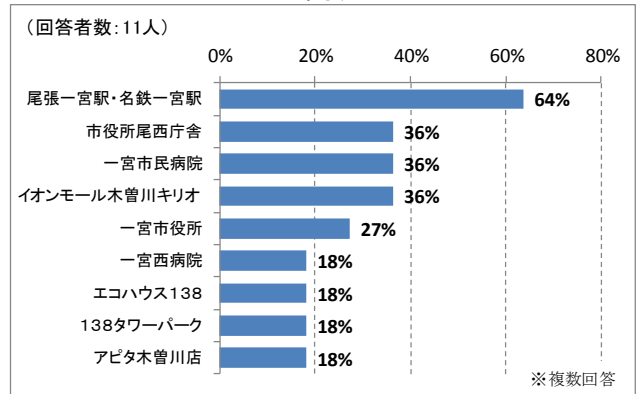
▼大徳



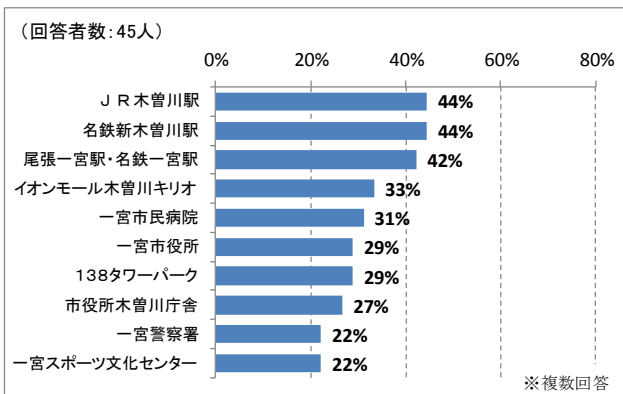
▼朝日



▼開明



▼木曾川町



▼隣接都市鉄道駅への利用意向

地区名	隣接都市鉄道駅利用意向
丹陽町	稲沢駅 3、岩倉駅 4
大和町	国府宮駅 3
千秋町	岩倉駅 5、布袋駅 1
浅井町	江南駅 1

* 駅名の後の数値はアンケート票数

※問8のバスを利用しない理由で「他の交通手段の方が便利だから」、「バスを利用する必要がないから」を回答した方を除く

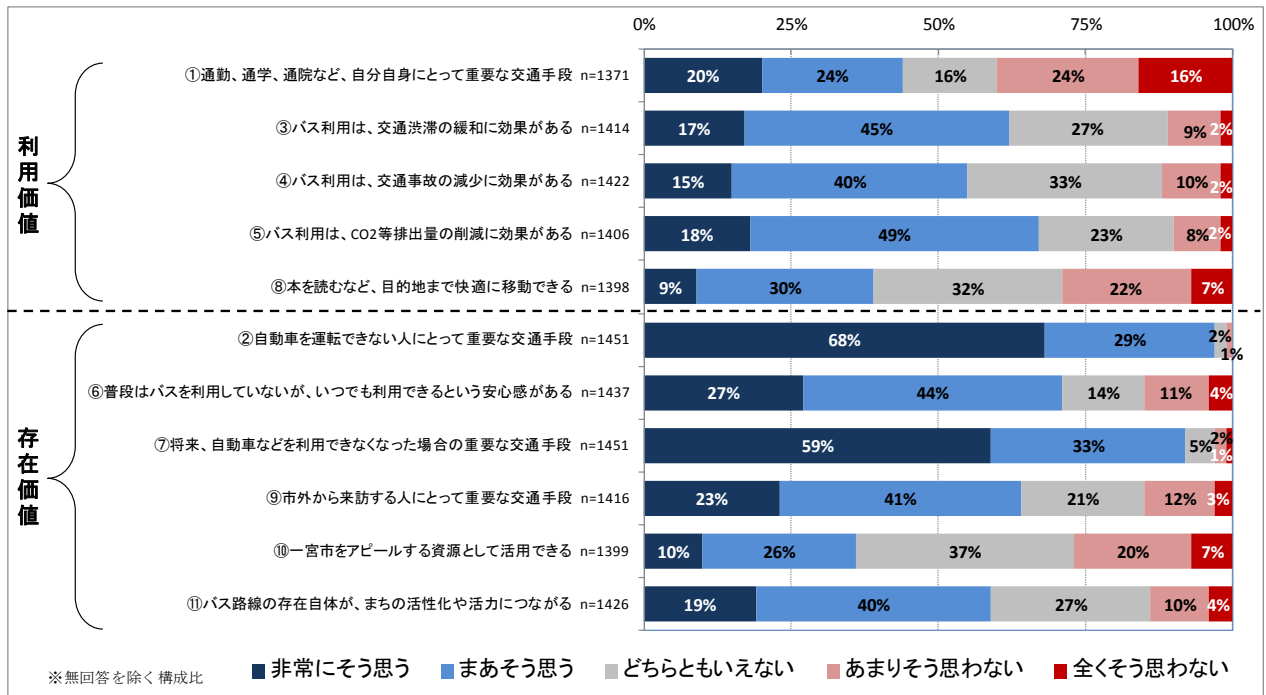
⑫バス路線の利用価値及び存在価値について（配布者全員対象）

問12 あなたが感じているバス路線の利用や存在の価値を5段階で評価してください。設問ごとに該当する番号1つに○をつけてください。

利用価値及び存在価値の項目	非常にそう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
例：自動車を運転できない人にとって重要な交通手段	5	④	3	2	1
①通勤、通学、通院など、自分自身にとって重要な交通手段	5	4	3	2	1
②自動車を運転できない人にとって重要な交通手段	5	4	3	2	1
③バス利用は、交通渋滞の緩和に効果がある	5	4	3	2	1
④バス利用は、交通事故の減少に効果がある	5	4	3	2	1
⑤バス利用は、CO2等排出量の削減に効果がある	5	4	3	2	1
⑥普段はバスを利用していないが、いつでも利用できるという安心感がある	5	4	3	2	1
⑦将来、自動車などを利用できなくなった場合の重要な交通手段	5	4	3	2	1
⑧本を読むなど、目的地まで快適に移動できる	5	4	3	2	1
⑨市外から来訪する人にとって重要な交通手段	5	4	3	2	1
⑩一宮市をアピールする資源として活用できる	5	4	3	2	1
⑪バス路線の存在自体が、まちの活性化や活力につながる	5	4	3	2	1

○バス路線の価値を項目別にみると、「自動車を運転できない人にとって重要な交通手段」、「将来、自動車などを利用できなくなった場合の重要な交通手段」が「非常にそう思う」及び「まあそう思う」を合わせた割合で9割を超えている。

▼バス路線の利用価値と存在価値



⑬バス路線が重要と感じる項目について（配布者全員対象）

問13 問12の①～⑪の項目について、あなたが重要と感じる項目を3つまで選び、重要と感じる順に該当する番号をご記入ください。

順位	1位	2位	3位
重要と感じる項目番号			

○バス路線の価値を「利用価値」と「存在価値」に分類した場合、「利用価値」の効果ウェイト約22.5%に対して、「存在価値」の効果ウェイトは約77.5%を占めている。

▼バス路線の利用価値と存在価値の効果ウェイト

効果項目		効果ウェイト	
利用価値	①通勤、通学、通院など、自分自身にとって重要な交通手段	10.0%	22.5%
	③バス利用は、交通渋滞の緩和に効果がある	3.7%	
	④バス利用は、交通事故の減少に効果がある	3.1%	
	⑤バス利用は、CO2等排出量の削減に効果がある	5.1%	
	⑧本を読むなど、目的地まで快適に移動できる	0.6%	
存在価値	②自動車を運転できない人にとって重要な交通手段	39.1%	77.5%
	⑥普段はバスを利用していないが、いつでも利用できるという安心感がある	8.1%	
	⑦将来、自動車などを利用できなくなった場合の重要な交通手段	23.0%	
	⑨市外から来訪する人にとって重要な交通手段	3.7%	
	⑩一宮市をアピールする資源として活用できる	0.4%	
	⑪バス路線の存在自体が、まちの活性化や活力につながる	3.2%	
計		100.0%	100.0%

*効果ウェイトは、項目別の価値の5段階評価で「非常にそう思う」4点、「まあそう思う」3点、「どちらともいえない」2点、「あまりそう思わない」1点、「全くそう思わない」0点とし、重要と感じる順位の「1位」3点、「2位」2点、「3位」1点として乗じた効果点数を合計点数で除したもの

⑭一宮市の公共交通対策に要する費用負担のあり方について（配布者全員対象）

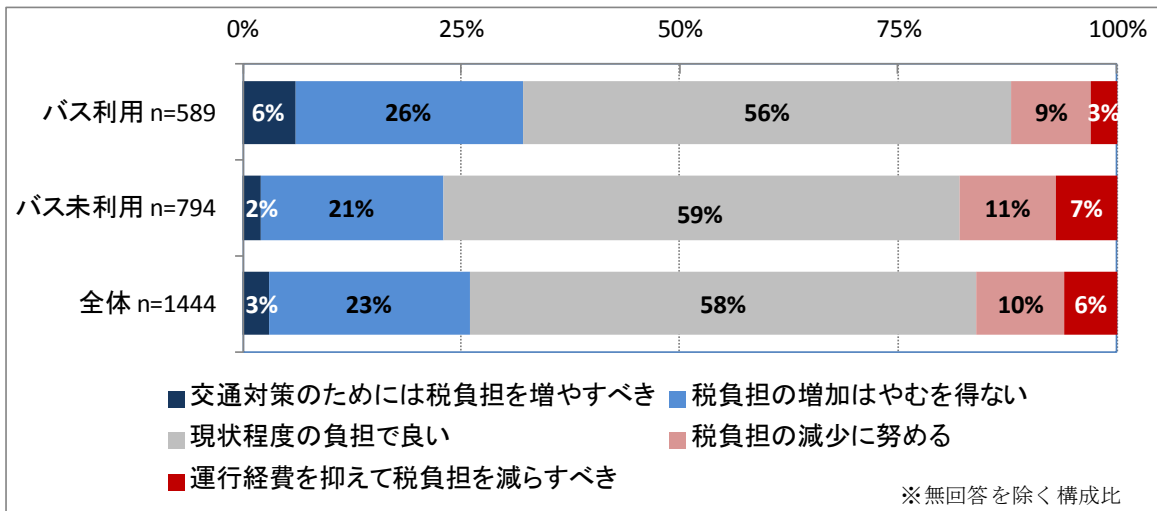
問 1 4 現在、一宮市の公共交通対策のため、市の予算（税金）から費用を負担していますが、この費用負担のあり方についてあなたの考えをおしえてください。該当する番号1つに○をつけてください。

参考：平成 21 年度の市内バス路線への公的負担額約 8 千万円で、1 人当たりの年間公的負担額は約 210 円/年です。

一宮市の公共交通対策に要する費用負担のあり方				
＜ 増加	← 現状	→ 減少	＞	
1. 交通対策のためには税負担を増やすべき	2. 税負担の増加はやむを得ない	3. 現状程度の負担で良い	4. 税負担の減少に努める	5. 運行経費を抑えて税負担を減らすべき

- 一宮市の公共交通対策に要する費用のあり方は、「現状程度の負担で良い」が 56～59%を占めており、バス利用の有無による違いは見られない。
- バス利用の有無で比較した場合、バス利用者では「交通対策のためには税負担を増やすべき」、「税負担の増加はやむを得ない」の割合が高く、バス未利用者では「税負担の減少に努める」、「運行経費を抑えて税負担を減らすべき」の割合が高くなっている。

▼一宮市の公共交通対策に要する費用負担のあり方



*バス利用者の回答数とバス未利用者の回答数の合計が全体の回答数と一致しないのは、バス利用またはバス未利用の回答が無い方を全体に含んでいるため

⑮一宮市の公共交通対策に要する公的負担額について（配布者全員対象）

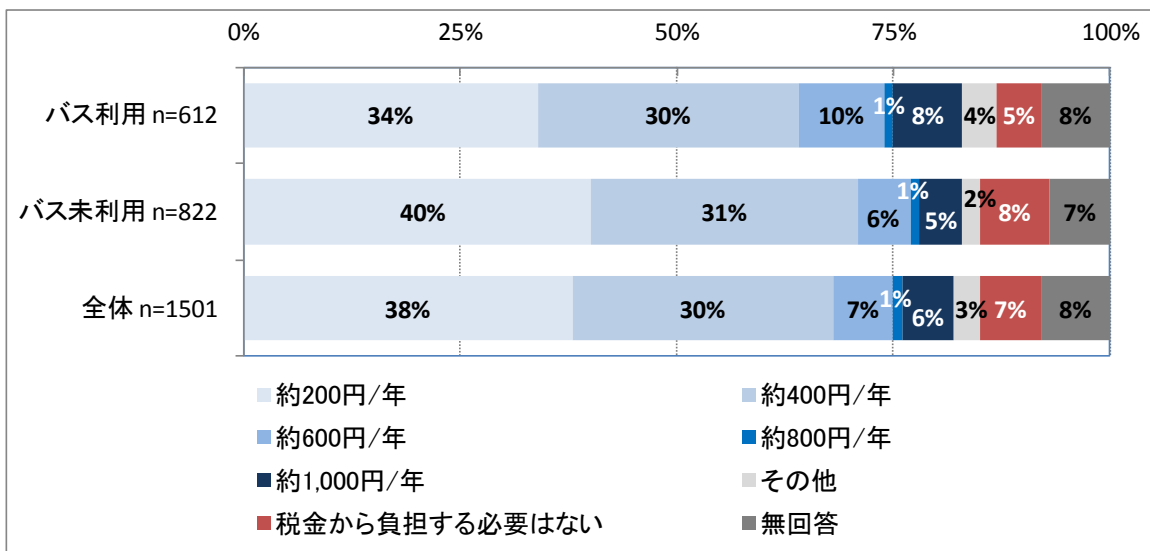
問 15 一宮市の公共交通対策のために、市は年間どの程度までなら負担しても良いと思いますか。1人当たりの年間公的負担額をおしえてください。該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|------------------|----------------|--------------------|
| 1. 約 200 円/年 | 2. 約 400 円/年 | 3. 約 600 円/年 |
| 4. 約 800 円/年 | 5. 約 1,000 円/年 | 6. その他（ _____ 円/年） |
| 7. 税金から負担する必要はない | | |

○1人当たりの年間公的負担額は、「200円」が34～40%と最も多く、次いで「400円」が30～31%、「400円」以下の受諾率は64～71%を占めている。一方で、「税金から負担する必要はない」とする方5～8%と「無回答」7～8%を合わせた13～15%に対して、公的負担を認める方は85%を占めている。これら回答は、バス利用の有無で大きな違いは見られない。

○市民1人あたりの年間公的負担額は平均317円となり、平成21年度の市民1人あたり年間公的負担額平均210円を上回る事となる。

▼一宮市の公共交通対策に要する公的負担額



⑩公共交通の利用がしづらい地域の公共交通対策に要する費用負担のあり方について（配布者
 全員対象）

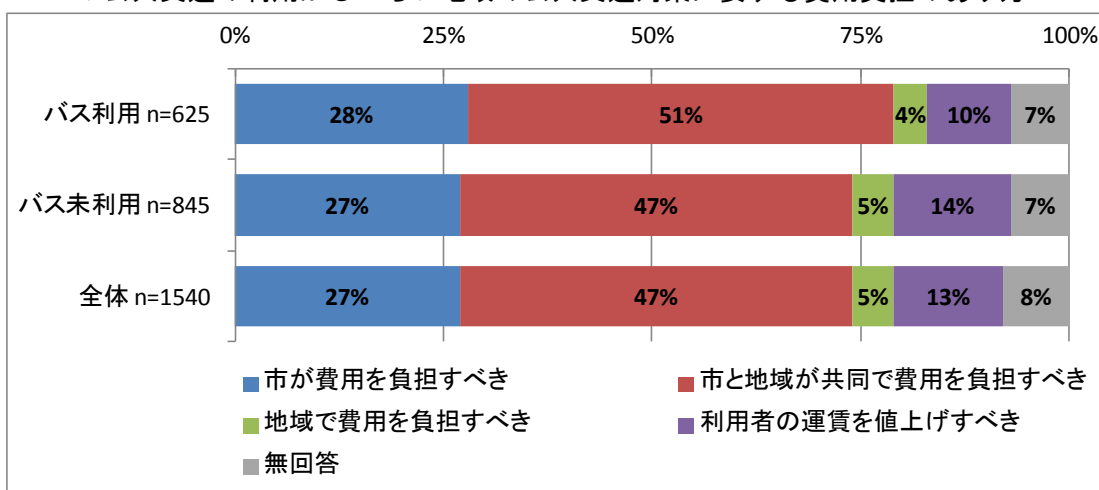
問16 一宮市内には公共交通の利用がしづらい地域が残っています。この地域の公共交通対策において、利用者の運賃収入で運行が維持できない場合の費用（運行欠損額）負担のあり方についてあなたの考えをおしえてください。該当する番号1つに○をつけてください。

公共交通が利用しづらい地域の公共交通対策に要する費用負担のあり方			
< 市	← 共同	← 地域（町内会など） →	利用者 >
1. 市が費用を負担すべき	2. 市と地域が共同で費用を負担すべき	3. 地域で費用を負担すべき	4. 利用者の運賃を値上げすべき

*地域の費用負担とは、利用の有無にかかわらず、運行地域の町内会が費用負担するなど、地域全体で運行を維持することです。

○公共交通の利用がしづらい地域の交通対策に要する費用負担のあり方は、「市と地域が共同で費用を負担すべき」が47～51%と最も多く、次いで「市が費用を負担すべき」が27～28%、「利用者の運賃を値上げすべき」が10～14%の順となっている。これら回答は、バス利用の有無で大きな違いは見られない。

▼公共交通の利用がしづらい地域の公共交通対策に要する費用負担のあり方



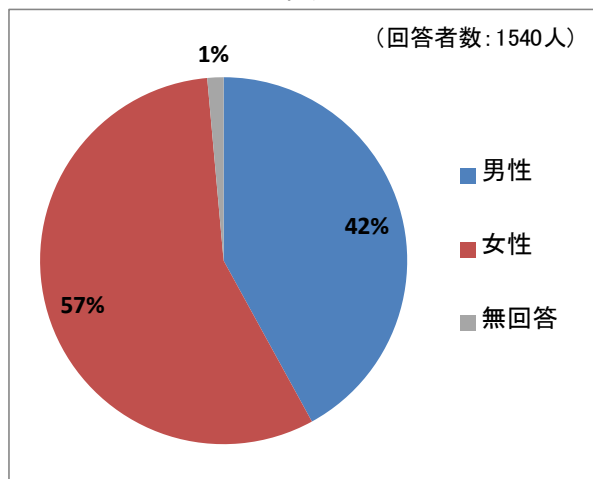
⑰性別について（配布者全員対象）

問 17 あなたの性別をおしえてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

○回答者の性別は、「女性」が57%、「男性」が42%と「女性」の占める割合が高い。

▼性別



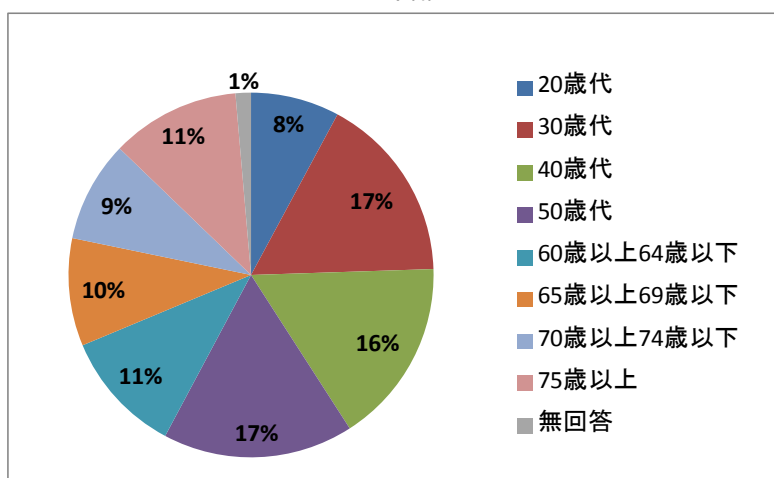
⑱年齢について（配布者全員対象）

問 18 あなたの年齢をおしえてください。

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| 1. 20 歳代 | 2. 30 歳代 | 3. 40 歳代 |
| 4. 50 歳代 | 5. 60 歳以上 64 歳以下 | 6. 65 歳以上 69 歳以下 |
| 7. 70 歳以上 74 歳以下 | 8. 75 歳以上 | |

○回答者の年齢層は、特定の年齢層で偏りはみられない。その中で、「60 歳以上」が占める割合は41%となっている。

▼年齢



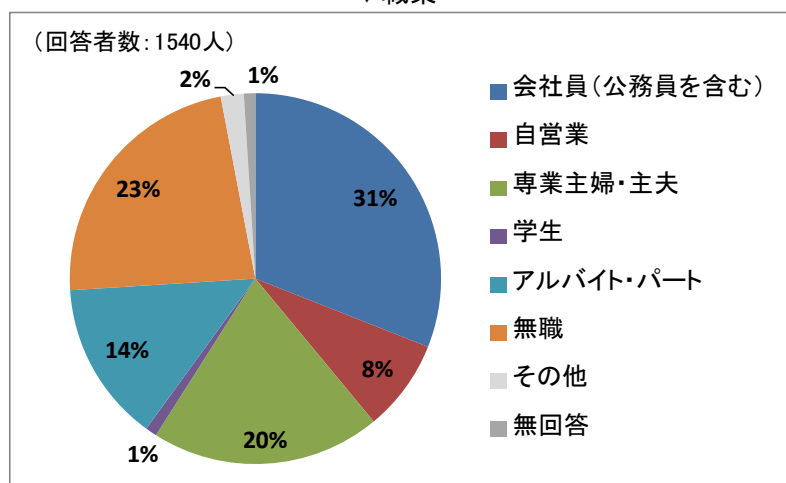
⑱ 職業について（配布者全員対象）

問 19 あなたのご職業をおしえてください。

- | | | |
|--------------------------------|--------------|------------|
| 1. 会社員（公務員を含む） | 2. 自営業 | 3. 専業主婦・主夫 |
| 4. 学生 | 5. アルバイト・パート | 6. 無職 |
| 7. その他（ <input type="text"/> ） | | |

○「会社員（公務員を含む）」が 31%と最も多く、次いで「無職」23%、「専業主婦・主夫」20%の順となっている。

▼職業



⑳居住地について（配布者全員対象）

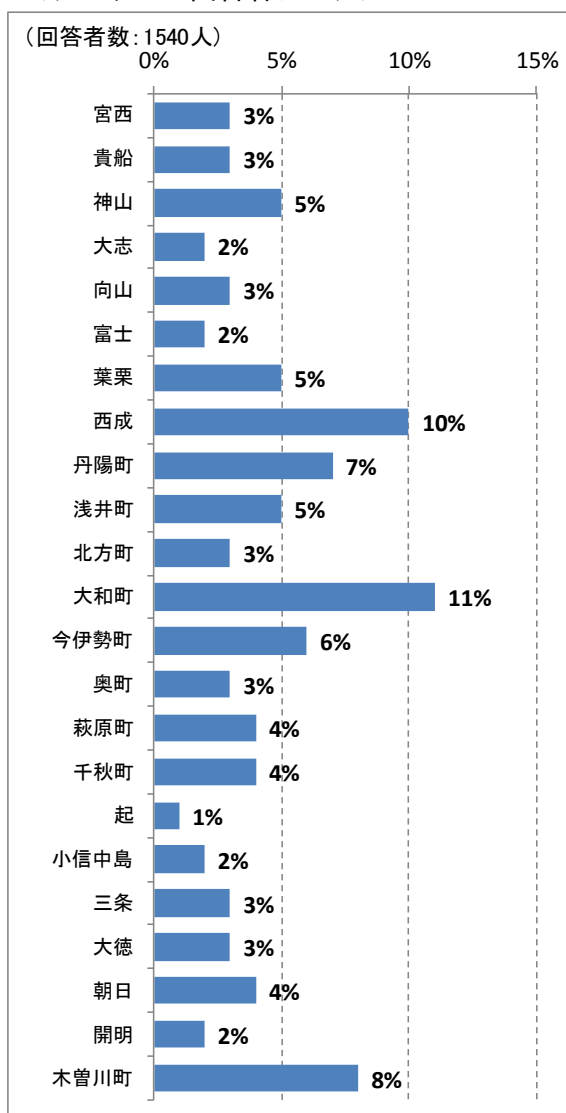
問20 あなたのお住まいの地区（連区）をおしえてください。

- | | | | | |
|----------------------------|---------|----------|----------|---------|
| 1. 宮西 | 2. 貴船 | 3. 神山 | 4. 大志 | 5. 向山 |
| 6. 富士 | 7. 葉栗 | 8. 西成 | 9. 丹陽町 | 10. 浅井町 |
| 11. 北方町 | 12. 大和町 | 13. 今伊勢町 | 14. 奥町 | 15. 萩原町 |
| 16. 千秋町 | 17. 起 | 18. 小信中島 | 19. 三条 | 20. 大徳 |
| 21. 朝日 | 22. 開明 | 23. 木曾川町 | | |
| 24. 地区が分からない方は小学校区をお書き下さい。 | | | （ ） 小学校区 | |

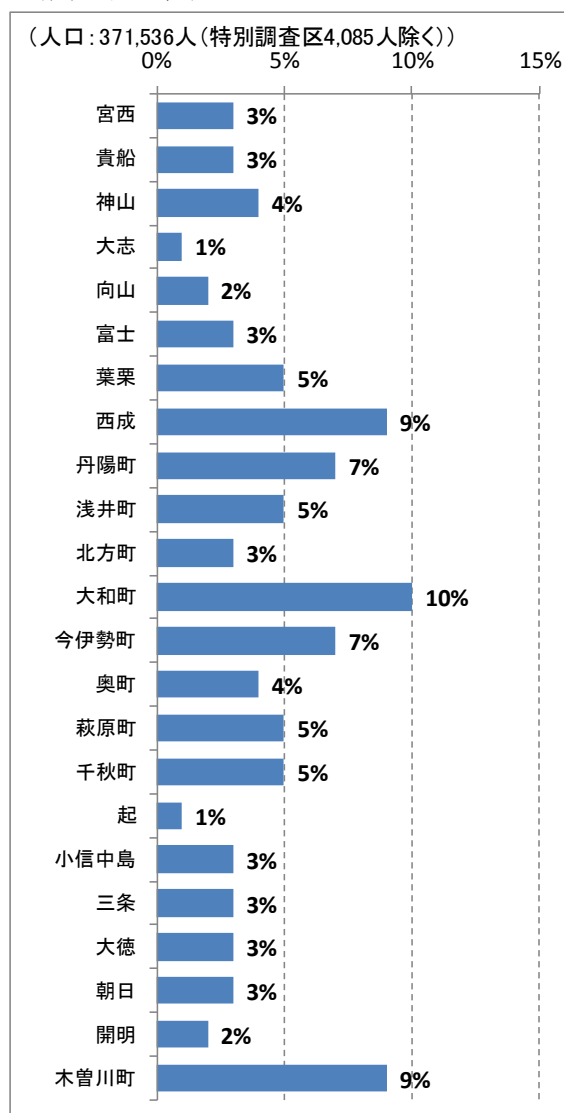
- 回答者の居住地シェアは、大和町、西成、木曾川町、丹陽町、今伊勢町、神山、葉栗、浅井町の8地区が5%～11%を占めている。
- 回答者の居住地シェアは、人口の居住地シェアとほぼ同様な傾向を示していることから、人口数に応じた回答が得られていることが伺える。

▼居住地

＜アンケート回答者シェア＞



＜人口シェア＞



*特別調査区とは、社会施設や病院等のある区域
(参考；H22 国勢調査速報値)

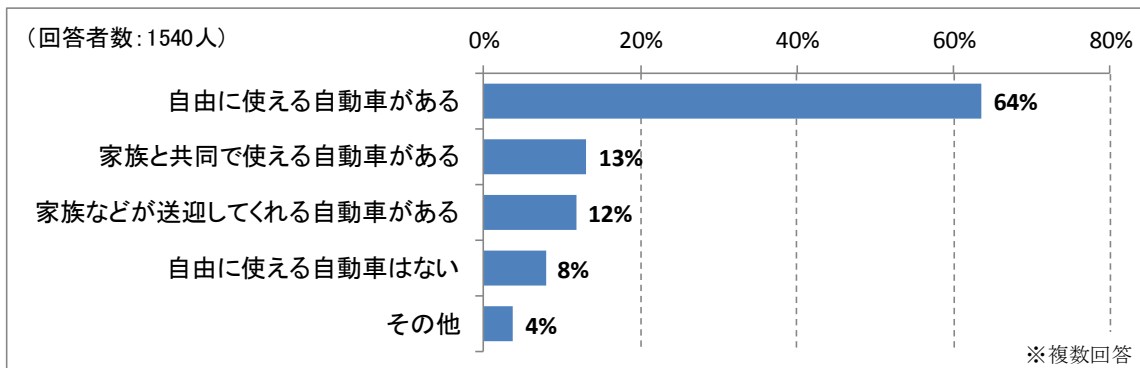
②1 自動車の利用状況について（配布者全員対象）

問 2 1 あなたは自動車を自由に使えますか。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 自由に使える自動車がある | 2. 家族と共同で使える自動車がある |
| 3. 家族などが送迎してくれる自動車がある | 4. 自由に使える自動車はない |
| 5. その他（ _____ ） | |

○回答者の自動車使用状況は、「自由に使える自動車がある」方が64%を占めている。

▼自動車の利用状況



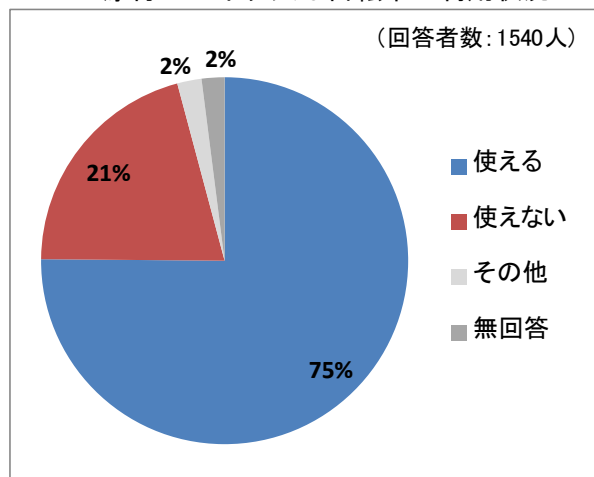
②2 原付・バイク又は自転車の利用状況について（配布者全員対象）

問 2 2 あなたは原付・バイク又は自転車を自由に使えますか。

- | | | |
|--------|---------|-----------------|
| 1. 使える | 2. 使えない | 3. その他（ _____ ） |
|--------|---------|-----------------|

○回答者の原付・バイク又は自転車の使用状況は、「使える」が75%を占めている。

▼原付・バイク又は自転車の利用状況



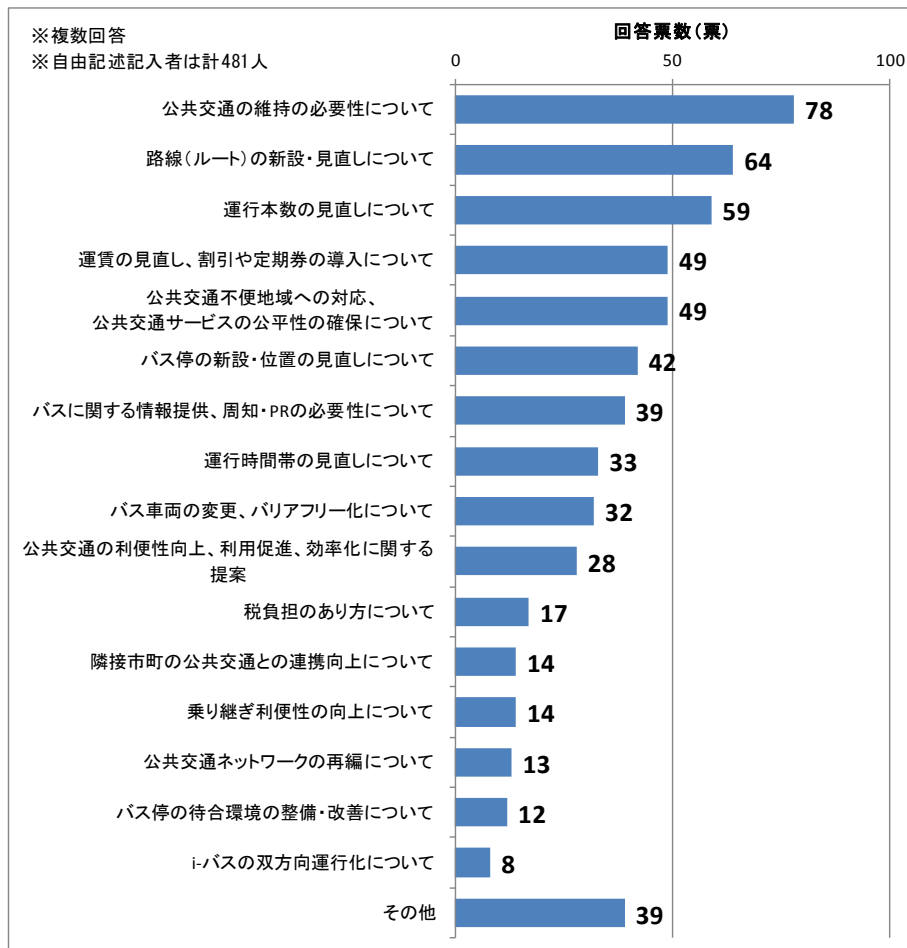
②③ 公共交通に関するご意見・ご意向について（配布者全員対象）

問23 路線バス、i-バス及び生活交通バスや公共交通が利用しづらい地域の交通対策など、地域の公共交通に関するご意見、ご意向がありましたら、自由にお書きください。

<自由意見欄>

○自由意見をカテゴリー分類すると、「バスは学生や高齢者などにとって重要な交通手段」、「将来、公共交通を利用する時が来るため、維持すべき」といった公共交通の必要性に関する意見・意向が多く出されている。

▼公共交通に関する自由意見（カテゴリー分類）



3) まとめ

①住民アンケート結果の概要

- バスの認知度は、「路線バス」が88%、「i-バス」が76%、「生活交通バス」が27%と生活交通バスの認知度が低く、運行内容の認知度では、「最寄りバス停を運行する路線の経路」や「行ける施設」、「運賃」、「時刻表」が低い。
- バスの必要性は、「今利用しており、今後も利用するため必要」が16%、「今利用していない又は自分自身は利用していないが今後利用する可能性があるため必要」が56%を占めており、これらを合計した「バスを必要」とする割合は72%となっている。
- この1年の間に利用したバス路線は、「名鉄バス」が33%、「i-バス」が6%、「生活交通バス」が2%を占めており、バス路線計では41%となっている。
- バス利用者の特性は、「年に数回程度」の利用が55%、「週に1回程度」以上の定期的な利用が17%を占めており、主に「買物」、「飲食・飲酒・娯楽」、「通院・検診」といった自由目的が23%~32%を占めている一方で、「通勤」が14%、「通学」では1%と低い利用となっている。
- 「他の交通手段の方が便利」、「バスを利用する必要がない」を除くバスを利用しない理由は、「自宅から最寄りバス停が遠い」、「バスでは目的地まで所要時間がかかる」といった運行上の理由や、「バスのルートを知らない」、「最寄りバス停の時刻表を知らない」といった認知上の理由が比較的多い。これら利用しない理由が改善された場合には、「利用しても良いと思う」方が59%を占めている。
- バス停利用圏域は、バス利用の有無、年齢階層、自動車や自転車等の利用状況により異なるが、概ね200m~300mの範囲となっている。
- バスで行く、バスで行けたら便利な施設は、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」が58%と最も多く、次いで「一宮市民病院」が39%、「一宮市役所」が31%、「イオンモール木曾川キリオ」が28%、「138タワーパーク」が22%の順となっている。地区別では、一宮市内23地区中、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」が17地区、「市民病院」が神山、大志、北方町、今伊勢町、千秋町の5地区、「尾西庁舎」が朝日の1地区、「JR木曾川駅」及び「名鉄木曾川駅」が木曾川町の1地区で第1位となっている。また、これら施設の利用頻度を見ると、ほぼ全施設で月又は年に数回程度といった比較的利用頻度の低い利用が主体となっているが、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」、「イオンモール木曾川キリオ」、「アピター一宮店」といった鉄道駅及び大規模商業施設では比較的利用頻度の高い利用も存在し、年齢階層別では、特定の年齢層の利用が特化する施設はなく、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」では高齢者層の利用もあり、「一宮市民病院」では比較的若い年齢層の利用も存在している。
- バス路線の価値を項目別にみると、「自動車を運転できない人にとって重要な交通手段」、「将来、自動車などを利用できなくなった場合の重要な交通手段」といった「存在価値」の効果ウェイトが77.5%と、「利用価値」の効果ウェイト22.5%に対して高い。
- 一宮市の公共交通対策に要する費用のあり方は、「現状程度の負担で良い」が56~59%を占めており、バス利用の有無による大きな違いは見られない。また、市民1人あたり年間公的負担額は平均317円と試算され、平成21年度の市民1人あたり年間公的負担額210円を上回っている。
- 公共交通が利用しづらい地域の公共交通対策に要する費用のあり方は、「市と地域が共同で費用を負担すべき」が47~51%と最も多く、次いで「市が費用を負担すべき」が27~28%となっており、バス利用の有無による大きな違いは見られない。

②住民アンケート結果からみた問題・課題

■住民ニーズに応じたバスサービスの提供とバス交通の役割分担の明確化

バスで行く、バスで行けたら便利な施設では、路線バス、i-バス（一宮コース）及び生活交通バスがアクセスする「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」が58%と最も多く、市内23地区（連区）中21地区で第1位もしくは第2位となっており、バスによる「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」へのアクセス利便性が求められている。また、「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」へのバス利用頻度は比較的高く、全ての年齢階層の方が利用意向を示されている。

「尾張一宮駅・名鉄一宮駅」へのアクセス利便性の確保にあたっては、JR東海道本線・名鉄名古屋本線のその他最寄り駅や名鉄尾西線の各駅との連携のあり方を検討し、適切な役割分担のもと、鉄道とバスが一体となった公共交通ネットワークの形成を図る必要がある。

■住民ニーズを踏まえた合理的なバスネットワークの形成

バスで行きたい施設として、「一宮市民病院」、「一宮市役所・尾西庁舎」、「大規模商業施設」なども挙げられており、これら施設へのアクセス利便性の向上が求められている。

また、市域縁辺部での地区においては、「隣接市の鉄道駅」が行きたい施設として挙げられていることから、市民ニーズを踏まえた隣接市との公共交通ネットワークの形成が課題として挙げられる。

▼バスで行く、バスで行けたら便利だと思う施設（各地区上位5施設）

	1位	2位	3位	4位	5位
宮西 (n=25)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 72%	イオンモール木曾川キリオ 52%	一宮市民病院 40%	一宮市役所 アビター宮店 32%	—
貴船 (n=37)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 59%	一宮市役所 イオンモール木曾川キリオ 24%	—	一宮市民病院 22%	アビター宮店 22%
神山 (n=29)	一宮市民病院 41%	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 34%	イオンモール木曾川キリオ 31%	一宮市役所 28%	大雄会病院 一宮市総合体育館 138タワーパーク 17%
大志 (n=19)	一宮市民病院 53%	イオンモール木曾川キリオ 42%	138タワーパーク 37%	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 エコハウス138 真清田神社 21%	—
向山 (n=25)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 56%	イオンモール木曾川キリオ 40%	一宮市役所 138タワーパーク 36%	—	一宮市民病院 32%
富士 (n=18)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 56%	138タワーパーク 50%	イオンモール木曾川キリオ エコハウス138 大雄会病院 28%	—	—
葉栗 (n=45)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 53%	一宮市民病院 38%	一宮市役所 JR木曾川駅 31%	—	イオンモール木曾川キリオ 22%
西成 (n=96)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 65%	一宮市民病院 32%	一宮市役所 31%	アビター宮店 27%	大雄会病院 25%
丹陽町 (n=70)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 70%	一宮市役所 50%	一宮市民病院 49%	大雄会病院 37%	138タワーパーク 33%
浅井町 (n=60)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 68%	一宮市民病院 45%	一宮市役所 33%	アビター宮店 30%	イオンモール木曾川キリオ 28%
北方町 (n=14)	一宮市民病院 50%	一宮市民会館 JR木曾川駅 43%	—	イオンモール木曾川キリオ 36%	木曾川市民病院 アビター木曾川店 138タワーパーク 29%
大和町 (n=80)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 59%	一宮市民病院 48%	一宮市役所 41%	イオンモール木曾川キリオ 34%	大雄会病院 23%
今伊勢町 (n=56)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 一宮市民病院 52%	—	一宮市役所 41%	イオンモール木曾川キリオ 32%	138タワーパーク アビター木曾川店 29%
奥町 (n=19)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 53%	イオンモール木曾川キリオ 47%	一宮西病院 37%	一宮市民病院 26%	一宮市役所 アビター木曾川店 21%
萩原町 (n=32)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 59%	一宮市民病院 47%	一宮西病院 一宮市役所 31%	—	138タワーパーク 28%
千秋町 (n=45)	一宮市民病院 58%	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 56%	一宮市役所 47%	大雄会病院 アビター宮店 44%	—
起 (n=18)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 72%	一宮市役所 一宮市民病院 イオンモール木曾川キリオ 22%	—	—	市役所尾西庁舎 尾西記念病院 真清田神社 尾西市民会館 17%
小信中島 (n=23)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 74%	一宮市民病院 39%	一宮西病院 イオンモール木曾川キリオ 一宮市民病院 26%	—	市役所尾西庁舎 22%
三条 (n=35)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 63%	市役所尾西庁舎 29%	イオンモール木曾川キリオ 一宮西病院 一宮市民病院 26%	—	一宮西病院 23%
大徳 (n=30)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 77%	市役所尾西庁舎 33%	一宮西病院 一宮市民病院 23%	—	イオンモール木曾川キリオ 20%
朝日 (n=24)	市役所尾西庁舎 58%	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 50%	尾西記念病院 25%	一宮西病院 尾西市民会館 イオンモール木曾川キリオ 21%	—
開明 (n=11)	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 64%	市役所尾西庁舎 一宮市民病院 イオンモール木曾川キリオ 36%	—	—	一宮市役所 27%
木曾川町 (n=45)	JR木曾川駅 名鉄木曾川駅 44%	—	尾張一宮駅・名鉄一宮駅 42%	イオンモール木曾川キリオ 33%	一宮市民病院 31%

■住民ニーズを踏まえたきめ細かいバスサービスの提供

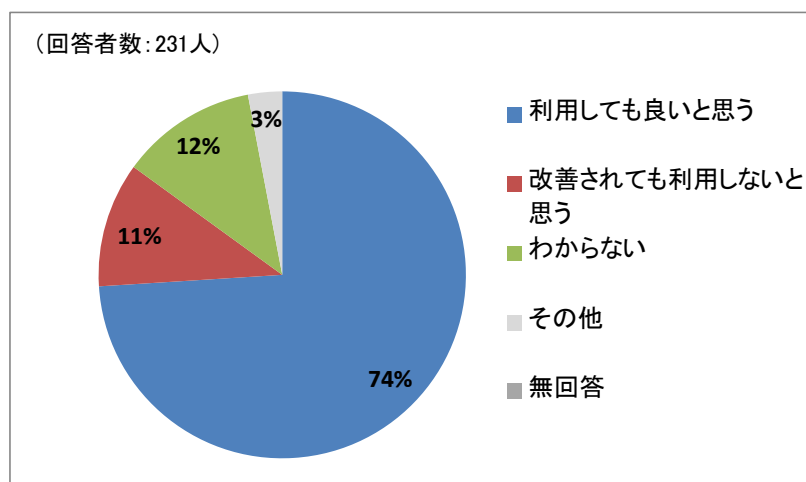
バス停までの交通手段は 84%が徒歩であり、バス利用が可能となるバス停利用圏域はバス利用の有無、年齢階層、自動車及び自転車等の利用状況により異なるものの、概ね 200m～300m の範囲となっている。

一方、バスを利用しない理由として「自宅から最寄りバス停が遠い」、「目的地・施設の最寄りバス停が遠い」とする人も多く存在しており、これら利用しない理由が改善された場合のバス利用意向は 74%となっていることから、住民ニーズに応じたきめ細かなバス停設置による利便性の向上を図る必要がある。その際、バス停設置により所要時間が増大し、利用者が逸走するといったことも考えられるため、バス停利用圏域等を踏まえ、適切なバス停設置を検討する必要がある。

▼バス停利用圏域の比較

区分	内訳	バス利用が可能なバス停までの距離
バス利用	バス利用者(最寄りバス停までの距離)	260m
	バス未利用者(他の交通手段の方が便利やバスを利用する必要がない方を除く)	230m
年齢階層	20 歳代	270m
	30 歳代	210m
	40 歳代	240m
	50 歳代	240m
	60 歳以上 64 歳以下	210m
	65 歳以上 69 歳以下	240m
	70 歳以上 74 歳以下	220m
	75 歳以上	260m
自動車利用	自由に使える(共同利用や家族の送迎を含む)	230m
	自由に使えない	250m
原付・バイク又は自転車利用	自由に使える	250m
	自由に使えない	200m

▼バスを利用しない理由(「自宅から最寄りのバス停が遠い」、「目的地・施設の最寄りバス停が遠い」)が改善された場合のバス利用意向



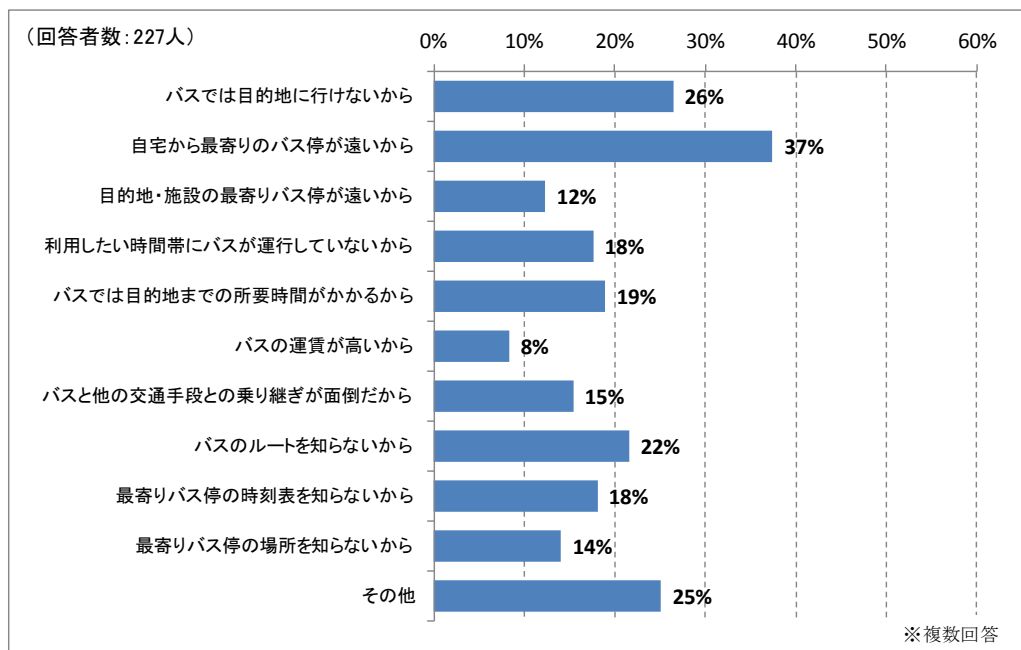
■バス運行情報の提供による公共交通の利用促進

バス路線の認知度のうち、「最寄りバス停を運行する路線の経路」、「バスで行ける施設」、「運賃」、「時刻表」といった運行上の認知度は16%～37%と低く、バスを利用しない理由として「バスのルートを知らない」、「最寄りバス停の時刻表を知らない」、「最寄りバス停の場所を知らない」といった認知上の理由が14%～22%存在し、これら利用しない理由が改善された場合のバス利用意向は57%となっている。

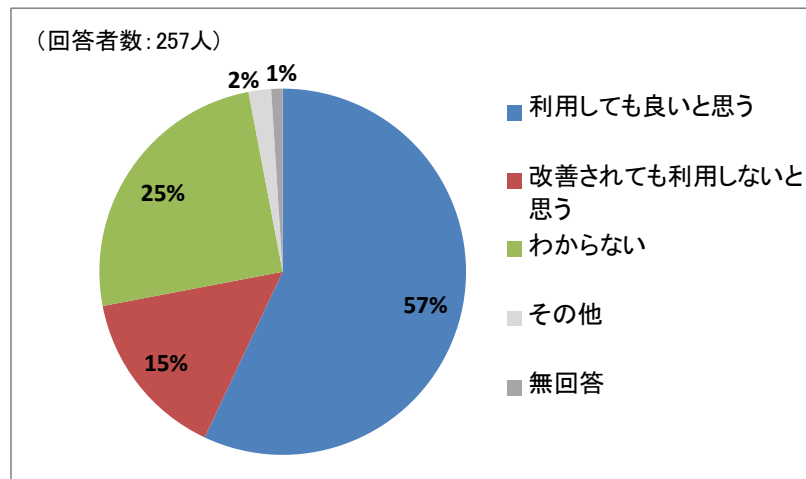
また、バスで行く、バスで行けたら便利な施設のうち、既存バス路線及び鉄道の乗り継ぎによりアクセスが可能な施設が多く存在している。

したがって、公共交通ネットワークの形成状況やバス停位置、時刻表など、運行に関する情報を提供することにより、公共交通の利用促進を図る必要がある。

▼バスを利用しない理由



▼バスを利用しない理由（「バスのルートを知らない」、「最寄りバス停の時刻表を知らない」、「最寄りバス停の場所を知らない」）が改善された場合のバス利用意向



■現在の負担額を基本とする効果的なバス交通サービスの提供とサービス提供に対する合意形成

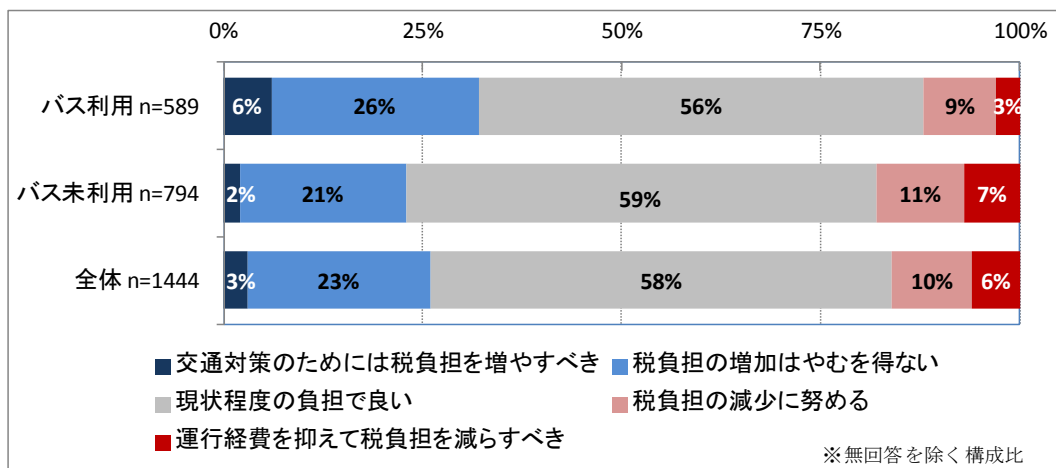
バス路線の必要性は、「今利用しており、今後とも利用するため必要」とする方が約 16%に対して、「今利用していない又は自分自身は利用していないが今後利用する可能性があるため必要」とする方が約 56%となっている。

バス路線の価値でみた場合、「自分自身にとって重要な交通手段」といった“利用価値”としてその存在意義を認める人が 22.5%に対して、「自動車を運転できない人にとって重要な交通手段」、「将来、自動車などを利用できなくなった場合の重要な交通手段」といった“存在価値”としてその存在意義を認める人が 77.5%となっている。

また、一宮市の公共交通対策に要する費用のあり方では、「現状程度の負担で良い」が 56～59%、バスが利用しづらい地域の公共交通対策に要する費用のあり方では、「市と地域が共同で費用を負担すべき」が 47～51%、「市が費用を負担すべき」が 27～28%となっており、これら回答はバス利用の有無による大きな違いは見られない。

したがって、現在の負担額を基に、住民ニーズにあったより効果的なバス交通サービスの提供のあり方を検討するとともに、交通不便地域の対策を市と地域が協働で取り組む仕組みづくりが必要である。

▼一宮市の公共交通対策に要する費用負担のあり方



▼公共交通の利用がしづらい地域の公共交通対策に要する費用負担のあり方

